

5. 肝属川の川づくりの進め方

5.1 地域との連携による川づくり

より良い肝属川の川づくりを実現するためには、日頃から地域住民との情報交換、コミュニケーションによる意思の疎通を図っていきながら、住民と行政の役割分担といった川づくりにあたっての連帯感を向上させていくことが重要であると考えています。そのためにもホームページや肝属川情報紙「川の声」等により積極的な川の情報提供を行うとともに、必要に応じ、川づくりについて住民との意見交換会を行います。特に肝属川の河川清掃やイベントなど地域住民の自主的な活動に対しては、多数の地域住民が参加できるよう、必要となる河川情報を積極的に提供するなどの支援を行っていきます。

これらを継続的に実施することにより、地域住民の肝属川に関わる機会が増え、「肝属川は地域のみんなの共通財産である」との認識の向上を図り、日常の維持管理においても従来の河川管理者が主体的に行ってきた河川管理から地域住民との連携・協働による河川管理への転換を推進していきます。

また、洪水による被害を最小限に抑えるためには、「自助・共助・公助」が連携し、効果的に機能することが必要不可欠であるため、災害情報の提供体制の構築・強化、洪水ハザードマップの作成支援や地域の防災力の向上を図っていきます。

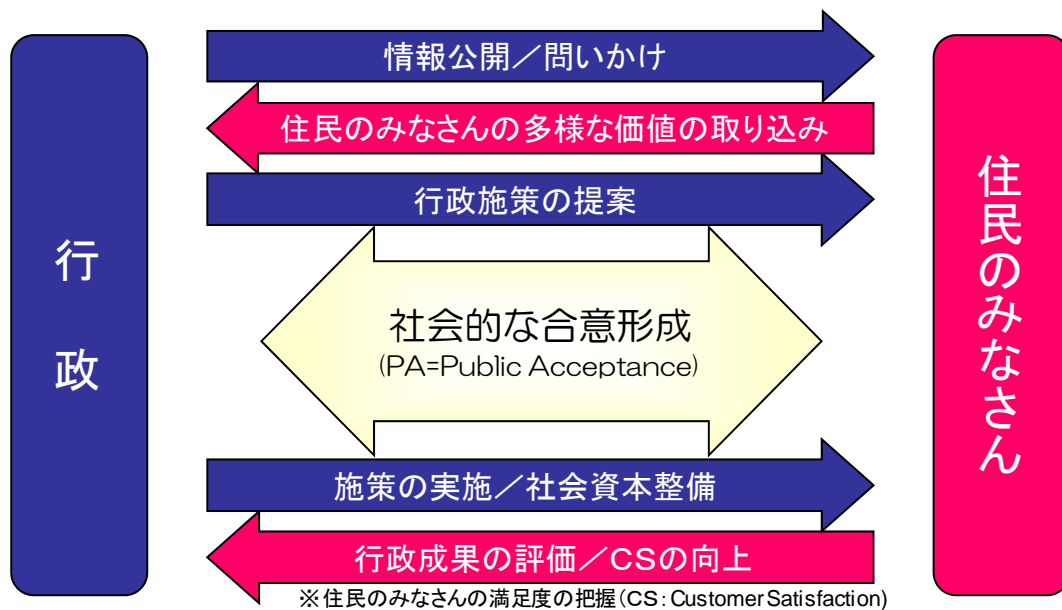


図 5.1.1 住民の方々と行政間のコミュニケーションのイメージ

5.2 河川情報の発信と共有

肝属川の特性や地域の風土・文化を踏まえ、大隅地方の母なる川として「肝属川らしさ」を活かした河川整備を進めるため、ホームページやテレビ、ラジオ、新聞などの地元メディアや地域の広報誌等を利用して広く川の情報を提供し、地域住民との合意形成に向けた情報の共有化、意見交換の場づくりを図るなど鹿児島県や関係市町等の行政機関や地域住民との対話を推進していきます。

そのため、大隅河川国道事務所では、当事務所が行っている河川整備や防災、水質やゴミ問題等の河川環境、河川に関する地域の活動など肝属川に関する様々なことについて、情報誌「川の声」や地域住民の要請に応じて事務所職員が直接説明する「出前講座」を継続し、情報の共有化を図っていきます。

さらに、川遊びや水生生物調査など自然体験活動等の機会を通じて身近な自然である肝属川に親しみ、将来を担う子どもたちの河川環境学習を積極的に支援するなど、地域住民が肝属川に対する関心を高めるための場づくりを実施していきます。また、肝属川の防災拠点であるきもつき川水辺館を住民の方々に無料開放し、防災に関する様々な資料展示を行うなど地域住民の防災意識の向上に努めます。



図 5.2.1 肝属川情報誌「川の声」



写真 5.2.1 出前講座（地元小学校）



写真 5.2.2 出前講座（地元町内会）



写真 5.2.3 川遊び